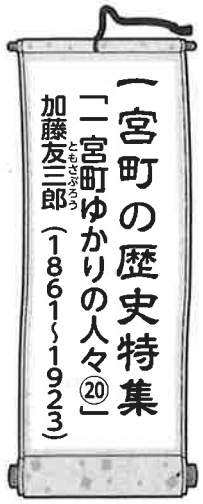


令和2年6月号



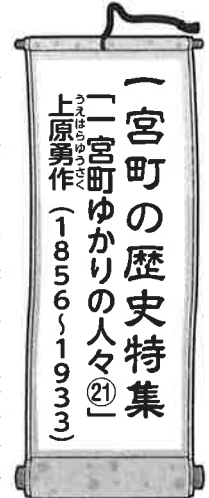
加藤友三郎は現在の広島県出身の海軍軍人・政治家です。海軍軍人としては日清戦争、日露戦争で活躍し、大正4年(1915)には第二次大隈重信内閣の海軍大臣に就任、以後三代の内閣に渡り、大臣として活躍しました。

大正10年(1921)に開催されたワシントン軍縮会議には日本主席全権委員として出席。軍備縮小に積極的に賛成したことから、各国から称揚されたといえます。

翌年6月、海軍大臣を兼任したまま、内閣総理大臣に就任。総理大臣としてはシベリア撤兵を完遂、陸軍の軍縮(当時の陸軍大臣であった山梨半造の名前から「山梨軍縮」とよばれる)を推進したほか、対外的には協調外交を進めました。

在職中の大正12年(1923)に死去。享年63歳。

加藤は現在の一宮町新地に別荘を有しており、現在その場所には石碑が建てられています。



上原勇作は宮崎県出身の陸軍軍人で、父は鹿児島藩士でした。日清・日露戦争で活躍し、日本陸軍の最高幹部職である陸軍大臣・教育総監・参謀総長の「陸軍三長官」を歴任した人物です。

明治45年(1912)に第二次西園寺公望内閣の陸軍大臣に就任。陸軍二個師団増設案が拒否されると大臣を辞任、陸軍は後任を出さず、軍部大臣現役武官制(軍部の大臣を現役の大將・中将に限定する制度)を利用して西園寺内閣を総辞職に追い込みました。

昭和8年(1933)に東京品川の本邸で77歳で死去。

一宮に別荘を有していた軍人の一人で、一宮海岸の台場跡の高台に別荘を構えていました。現在その場所には石碑が建てられています。

加納家との交流もあった人物のようで、一宮に別荘を構えたのは加納久宜が関与していたようです。

(教育委員会 江澤一樹)

【問合せ】教育課 ☎(42)1416

令和2年7月号



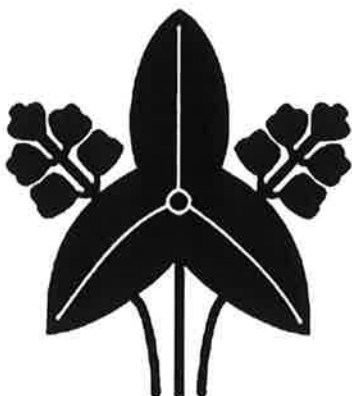
観明寺の四脚門は町内に残る最古の建造物といわれ、昭和52年(1977)に町の指定文化財に指定されています。

観明寺は天台宗の寺院で天平6年(734)に行基(668~749)によって開山され、慈覚大師(794~864)の中興と伝えられています。明治時代初期頃まで、玉前神社の別当寺の地位にありました。

四脚門は切妻造で屋根はかつては茅葺であったといいますが、現在は茅葺型の銅板屋根となっています。正確な建立年代は不明ですが、正面の墓股に堀氏の「沢瀉紋」の家紋があることから、江戸時代初期頃と考えられます。

堀氏は寛文十二年(1672)から約30年間、一宮本郷村(現在の一宮町字一宮の大部分)を治めており、この山門は堀氏の寄進によるものとも言われています。

平成25年(2013)に修復工事が行われ、現在地に移設されました。



▲ 立ち沢瀉紋

【問合せ】教育課 ☎(42)1416

(教育委員会 江澤一樹)